



9月の園だより

社会福祉法人 であいの里 さやま保育園
2024年9月1日発行

保育目標 報謝 ありがとう

- ・だれにでも、進んで「ありがとう」をいいます。
- ・お友だちを励ましたり、協力したり、わくきら☆スポッチャを楽しむ。

今月の行事予定

- 2・17日 礼拝 2日 避難訓練(夕方)
12日 避難訓練(火災通報・消火・避難)
発育測定(11日あひるひよこ 12日うさぎりす
13日ぞうきりん)
19日 クッキー作り 20日 誕生会
25日 リハーサル 27日 前日準備
28日 わくきら☆スポッチャ(富士商ドーム)



【法話】

【お彼岸】

台風 10 号の被害は身近では大きくなかったものの、各地で甚大な被害をもたらしています。保育園では木曜日の夕方から浄化槽が故障し台風で業者が休業のため、地域の方が暴風雨の中毎日、浄化槽の水を抜きに来ていただいたお陰で、保育を続けさせていただけました。有り難いことでした。

お彼岸は、「暑さ寒さも彼岸まで」と、昔から言われるように、春と秋の年に二回、一週間ずつあります。その一週間の真ん中の日が、彼岸の中日で、現在では、春分の日、秋分の日という祝日になっています。ではなぜ祝日なのでしょう？昼と夜の長さが同じだから……太陽が真東から昇るから……？「国民の祝日に関する法律」には、秋分の日は「祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ」とあります。昔からの仏教行事であるお彼岸の意義をくんで、祝日に定められているようです。

今の私のいのちがあるのは、数え切れない多くのご先祖の方々がおられたからです。その多くの方々の大きなお徳を偲ぶ中で、私自身のいのちを考える日として定められているのが、お彼岸なのです。日頃は、^か彼の岸（真実の世界）に目をそむけて、^こ此の岸（迷いの世界）に生きている私達ですが、お彼岸に際し、少しでも私のいのちについて、真正面から考えてみたいものです。私自身の、いのちが、どこから来て、どこに行くのか、真剣に考えてみましょう。私の頭では、答えは出ませんし、仏教・仏さまの教えに尋ねる・御聴聞する以外、答えは見つかりません。今年のお彼岸(9月22日)には教證寺で慶讃法要があり、どなたでもお参りいただける行事としてお待ちしております。合掌

今年度の運動会は「わくきら☆スポッチャ」と名前を変えて、みんなに参加してもらい体を動かして楽しむ行事です。おじいさんおばあさん、ご家族みなさんお越しください。

【 食べることが楽しくて、 うれしくなる子 】

さやま保育園では昨年度から、以上児の子ども達が食事を通して「食べることが楽しくてうれしくなる子」に育つために、ホールで、食べたい時間（1便 11:40～、2便 12:10～）、食べたい量（大、中、小）、いっしょに食べたい友達、食べたい場所を自分で選んで給食をいただいています。子ども達の主体性を尊重し、子ども達が楽しく食事をする雰囲気作りを大切にしています。

そんな中で、嫌いなおかずは減らしてもらい、好きなおかずはおかわりをして、時には準備いただいた給食が残ってしまうことが起こりました。そこで今一度、「給食は、みんなが元気に活動できるため栄養を考えて給食の先生が作ってくださっていること、それをバランスよく食べることが大切なこと。今は食べられなくても、初めて食べる味でも、少しでも食べて挑戦してみることも大切であること」を、子ども達と確認しました。

大盛り中盛り小盛りに分けられたお皿から自分が食べられそうなお皿を選び、どの食材にも少しでも挑戦する姿を応援する。給食の先生からも食材がどんな力に変身するのかを教えていただく。先生たちもいっしょに食べる楽しさ美味しさの雰囲気を作る。先日の冷やしそうめんの時も、「キュウリも麺といっしょに食べてみたらおいしかったよ！」「スイカ嫌いと思ったけど、2切れも食べれたよ！」と、うれしい声が聞こえてきました。

「食べることが楽しくて、うれしくなる子」は、今だけのことではありません。20年後、50年後を生きる子ども達が、食事を楽しくできる人・生きる力になることが本当の目標です。そして、本当に主体的に生きるとはどういうことなのか？好き勝手ばかりできることではない、やりたい放題ではない、自分にとって本当に必要なことを選択し、責任を持ってやり遂げる力を育むことであり、自分が支えられていることに気づき、感謝できることであると、子ども達に教えられ、大人の私たちの生き方も見直すことができました。